

「新たな技術への取り組み」

3D volume 解析機能を活用した入院患者のリスクマネジメント

◎中川 夏輝¹⁾、池戸 伊佐子¹⁾、杉田 奈緒美¹⁾、橋詰 綾乃¹⁾、下司 洋臣¹⁾
富山県済生会 富山病院¹⁾

【背景】高齢化社会が止まらない本邦では心不全パンデミックも到来し、虚血性心疾患や弁膜症を有する患者が増加していることは周知の事実である。

当院の入院患者は、救急等の緊急入院患者が高いシェアを占めており、その為に患者の病態等が不明な状態で入院することも少なくない。そのため、循環器病以外で入院している患者が突然の心臓由来のショックにより緊急対応する例も散見される。そのような患者に心機能評価の一つとして心エコー図検査等を入院時に実施しておくべきと考えるが、検査室では時間的余裕が不足しており実施が出来ていない。

そこで、全ての入院患者に心機能評価を行えるような超時短心エコー図検査システムの構築が必要と考える。

【方法】検査時間を5分間で完了するように設定し、評価は右心負荷評価に TR peakPG の測定、左心機能評価に 3D volume 解析 (3DEF, 3DEDV, 3DESV) , そして技師による目視評価を行う。評価で当院の設けた基準より外れた場合には、循環器内科へのコンサルトと再検査の実施を行う。

【課題と展望】本システムは技師による目視判定能力も重要となるため、その判定能力を維持できるような技師育成カリキュラムや技師によるダブルチェック機能等を構築する必要性が今後あると思われる。また、病院内のリスクマネジメント委員会へ参加し、オーダーの無い患者への評価実施がカバーできるような働き掛けをしていきたい。

富山県済生会富山病院 076-437-1111